

交通資料館の概要について

旧交通資料館は、市営交通の歴史的資料を後世に残すとともに、社会教育に役立てるため、昭和 50 年に地下鉄自衛隊前駅そばに開館し、多くの方に親しまれましたが、地下鉄高架部の補修工事に伴い、平成 29 年秋から一時閉館し、建物を解体しました。

その後、令和 4 年 6 月から、地下鉄南北線乗務庁舎との合築により、これまでと同じ敷地に建設を開始した新しい交通資料館が令和 5 年 9 月下旬に竣工しました。

竣工後、屋内展示物の製作を着手し、令和 6 年 5 月 1 日（水）に装いも新たにリニューアルオープンする予定です。

1. 運営の概要（予定）

■所在地	札幌市南区真駒内東町 1 丁目 1（地下鉄南北線自衛隊前駅すぐ側）
■開業予定日	令和 6 年 5 月 1 日（水）
■開館期間	毎年 4 月 15 日から 10 月 31 日
■開館時間	午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分
■休館日	毎週水曜日（水曜日が祝・休日の場合は翌日） ※市内小学校の夏休み期間中は無休
■入館料	無料
■フロア構成	1 階部分：交通資料館 2 階部分：南北線乗務庁舎（合築）
■展示面積	屋内展示室 471 m ² 屋外展示場 5,550 m ²
■管理運営	委託



2. 施設のコンセプト

～夢をつなぐ（絆）“時空絵巻”の旅！～

■「歴史をつなぐ」・「夢をつなぐ」・「市民の想いをつなぐ」の 3 本の柱で展示を構成し、来館者が来館後には札幌市営交通に「誇り・憧れ・信頼・希望」を抱くような意識の変化をもたらします。

屋外展示場



【南北線営業第 1 号車】

■屋外展示場には地下鉄車両 5 両、市電車両 10 両、バス車両 4 台の貴重な車両が展示されており、間近で見学できます。

3. 展示スペースの概要



ウェルカムコーナー

- 施設入り口は「夢をつなぐ（絆） “時空絵巻”の旅」の始発地点です。今まさにここから、交通の旅へ歩みを進める利用者の期待（ワクワク・ドキドキ）を加速させます。
- SNS 等での発信効果も狙い、市電や地下鉄車両のパネルを用いたフォトスポットも設置します。



ヒストリーコーナー

- 昔の切符や様々な部品・機器など保存価値の高い交通資料をテーブル型の引き出しに収蔵します。ただ単に「見る」のではなく、「見つけ」、様々な角度から「観察」できる“仕掛け”を施します。
- 「木製 22 号」（下段参照）にプロジェクションマッピングを投影し、大正の姿や札幌市の街と交通の関係を過去の写真を使った映像表現でダイナミックに伝えます。走行で揺らぐつり革や乗客の姿をシルエットアニメーションで描き出すことで、あたかも車窓の風景が動き出し、木製 22 号が歴史の中に向かって発進していく姿を演出します。



【木製 22 号車】

名古屋電車製作所で製造された木造 4 輪単車。
1918 年(大正 7 年)に札幌電気軌道(株)(札幌市交通局の前身)が開業するため、名古屋電気鉄道から購入し、1919 年(大正 8 年)に運行を開始しました。
旧資料館閉館中は、博物館明治村(愛知県犬山市)に展示保管(平成 26 年 6 月～令和 5 年 9 月)されていました。

体験コーナー

- 車両コントローラーを用いて、ジオラマ内部の隧道を走行する地下鉄の運転が体験できます。車両の先端には小型カメラを取り付け、走行する隧道内の様子が画面に表示されます。
- 路線図のボタンを操作することで、駅のホーム音や普段聞くことの出来ない地下鉄の整備音など様々な音が流れます。



札幌市営交通の誇りコーナー

- 日々の安全な運行を支える人達にフォーカスを当て、パネル等を用いて仕事内容等を紹介します。



※この他にも「多目的ルーム」や「物販コーナー」なども設置します。